

2013年10月30日

建築生産技術研究発表会を開催しました

戸田建設(株)(社長:今井雅則)は、第59回建築生産技術研究発表会を10月18日に建築会館(東京都港区)にて開催しました。テレビ会議システムにて各支店の会議室と中継を結び、会場参加者304名、支店参加者333名、合わせて637名の社員が参加しました。

この建築生産技術研究発表会は、作業所で実施している品質や生産性の向上に向けた取組みを、全国の作業所に水平展開することを目的として毎年開催しています。

今回の発表会では、「構造改革や意識改革の中で再生に向けて前進する」、「信頼の回復と工事収益の改善に向けて」、「高度な施工技術への挑戦」、「原価回復の追求と多様なニーズ」と題してセッション毎に15件のプレゼンテーションが行われました。会場および支店から積極的に質問があがるなど活発に意見交換が行われました。

開催にあたり社長からは「社員一人ひとりが自己責任・自己判断そして当事者意識を持って行動し、会社全体として変わっていかねばならない。技術に裏打ちされた価値を持って企業の喜びである利益をスピード感を持って築き上げることが肝要である。そのためには、生産性向上が最も重要であり、『価値ある自分、価値ある戸田建設』を目指してもらいたい。」と挨拶がありました。また、南極越冬隊長であった西堀栄三郎博士の『技士道15カ条』についても紹介し、社員として必要な「技術に携わる者」の心得を全員で確認しました。

また、発表会に先立ち10月17日に200N超高強度コンクリートやPC化を取り入れた地上55階建ての超高層RC集合住宅を含む「西富久地区市街地再開発」と鉄骨建方や研ぎ出しPC部材を取り付けている「早大早稲田キャンパスD棟」の2つの作業所での現場見学会と、昨年7月に施設整備を完了した筑波技術研究所の見学会を開催して、合わせて76名が参加しました。先進の取組み事例を実際に自分の目で見る事ができる貴重な機会として、知識の吸収に努めました。



写真1 今井社長による挨拶



写真2 発表の様子